

井上準之助 おのゝり 政治家。明治二年三月二十五日豊後國生れ、昭和七年二月九日歿（一八六九—一九三二）。號清溪。帝國大學卒。明治二十九年日本銀行入行、大正二年横濱正金銀行頭取、八年日本銀總裁。十二年以降二度藏相に就任し、緊縮財政の推進、金融出解禁などを行ふ。血盟團の^{キョウマシヤウ}小沼正公射殺せられた。

著書 『本邦財政經濟の現状』（大正十四年二月） 『十四日教化團體聯合會「教化資料」』、^{戰後}於ける我國の經濟及金融』（大正十四年五月） 『十五日岩波書店』、 『外遊所感』（大正十五年二月五日岩波茂雄刊）、 『我國際金融の現状及改善策』（大正十五年七月十五日岩波書店）、

『國民經濟の意義』と金解禁—附録金解禁問題の解説』（勝正憲編、昭和四年九月五日千倉書房）、 『井上準之助論叢・第一卷（著書）』（昭和十年四月） 『一九九日井上準之助論叢義論義會編刊』等。また、國民經濟研究會編 『井上準之助論』（昭和四年九月五日文修堂書店）、 武藤山治著 『井上藏相の錯覺—我々の不景氣救済策』（昭和五年八月） 『二十日東洋經濟出版部』、 秋田博著 『凜の入井上準之助』（平成五年五月） 『二十日講談社』等がある。

